

# よかところ通信



2009年4月

O2Farm【オーツーフาร์ม】 大津耕太&愛梨  
〒869-1501 熊本県阿蘇郡南阿蘇村両併 587  
Tel&Fax : 0967-62-3730  
E-mail: [o2farm@aso.ne.jp](mailto:o2farm@aso.ne.jp)  
O2FarmWeb : [www.aso.ne.jp/reisi](http://www.aso.ne.jp/reisi)  
バックナンバーID = o2farm

春らんまん。皆さまいかがお過ごしでしょうか。すっかり忙しくなったO2Farm。今月の大きなニュースは2つあります。私(えり)が、食品加工に向けての第一歩を踏み出した事と、お米の種を蒔いた事。それぞれご紹介していきますね。

料理大好きのくいしんぼう。農家のヨメとなった以上、いつかは作物を商品にしたい!という夢を就農当時から持っていたのですが、阿蘇に来て2年目には妊娠。以来、加工どころか、農作業にもほとんど関わらず、慣れない育児にてんてこまいで数年が過ぎました。ところが、チャンスと言うのは突然訪れるものなのですね。「桜祭で一緒にお店を出してみようか」とのお誘いが舞い込んで来たのは、今年の2月。タイヘンになるのはもちろん分かっていましたが、馬力で乗り切るつもりで覚悟を決めました。出店メンバーは主婦が3人。子供はなんと計7人!「米粉とあか牛を使う」というのが当初からの目標で、保健所から許可が出るまで何度も試作を重ねました。出来たメニューの名前は「こめこまき」。左は、白米からできた米粉を使ったクレープであか牛の肉味噌とタカナを巻いた「阿蘇まき」。右は、玄米粉をベースにしたもちもちの生地に、あんこと生クリームをはさんで桜の塩漬けをのせた「さくらまき」。どちらも、かなりの自信作です!



さて、肝心の売れ行きはというと...、知名度がない上に、売り方もど素人だったため、期待したほどは売れなかったというのが現実。でも、私にとっては、初めてのオリジナル商品!約3週間という長丁場でしたが、充実した毎日で、それほど疲れを感じませんでした。色々な形で応援してくれた家族や友人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。

ところで。このお祭のためにあか牛を1頭つぶしたのですが、召し上がってみたい方はいらっしゃいませんか?もともと赤身が多い健康ビーフなのですが、今回は「経産牛」と呼ばれる高齢の母牛で、脂身が少なかったため、肉は全てミンチにしてもらいました。業者さんに言われるまま5キロずつのパックにしてしまったため、家庭用の冷凍庫には入らないのが不便なのですが、5キロという単位で買って下さる方には、ほとんど原価の100gあたり130円(5キロで6500円)でお譲りしたいと思いますので、御友達や御親戚などお誘い合わせの上、ご希望の方はご連絡下さい。わが家のコシヒカリ玄米粉もあります。こちらほとんど原価の1キロ500円でお譲りいたします。



さてさて、私が桜祭にかかりきりになっている間、コウタは黙々と一人で田植えの準備を進めていました。種籾(たねもみ)は、塩水に浮かせて実が詰まっているものだけを選び、種まきの日から逆算して、一週間ほど水に浸し、蒔く直前の2晩はお湯に漬けておきます。



そうすることで発芽を促しておくのです。去年洗っておいた苗箱に、まずは床土を敷き詰めておき、その上に種を蒔きます。数年前までは何日もかけて手作業でやっていましたが、叔父が中古の機械を仕入れてきたので、肉体的には随分楽になりました。文明の利器ってすごいですね…。子供たちも農機具メーカーの帽子をかぶって長靴を履いてのお手伝い。苗箱を機械に差し込んでいく作業で、今回は初めてと言っていいほど役に立ちました！一家総出の作業風景をご覧ください。最後には来月で1歳

になる讃太郎まで「やる」と主張しだす始末。みんながやっているの、自分も参加したくなったのでしょ。

苗の準備と同時に、田んぼの準備も着々と進んでいます。「畦塗り」と言い、田んぼの水が溜まるように田んぼの周辺を土で固めるのですが、これも今では機械作業。トラクターの後ろに畦塗り機を取りつくと、ちょうどコマのような円盤が土を押しつけながらきれいな畦をつくっていきます。苗づくりにしても、畦塗りにしても、「昔は腰が痛くなるし、ひびが割れるし、きつくて涙が出そうだった」とばあちゃん。「今は機械代の支払いで、すずめの涙も出らん」と励まし。今も昔も、そうは簡単には行かないようです(笑)。



毎年恒例、牧野の野焼きも行いました。今年は全国的に山火事が多発。突風が吹いたり、乾燥していたりするとものすごい勢いで火が広がるので、細心の注意を払って火をつけます。パチパチパチと大きな音をたてながら間近でスキが燃えていく様子は、ちょっと例えようのない迫力です。ちょうどわが家に遊びに来ていたドイツとフランスの友人たちも参加して国際的な作業になりました。阿蘇の山肌は3月から4月にかけて真っ黒。そこから徐々に新芽がはえ、GWには一面が緑の絨毯のようになります。こうして太古の昔から草原が守られているのですね。

て太古の昔から草原が守られているのですね。

